

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200904		
法人名	有限会社にこここ苑		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	岩国市玖珂町1020-3		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町受理日	平成23年1月28日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

調理専門のスタッフ導入により、職員がゆとりを持って利用者のケアにあたる事が出来るように取り組まれています。利用者一人一人その人らしい生活が送れる様に対応しています。リビングに集まり、皆さんで和気あいあいに家庭の延長の雰囲気の中で過ごす時間を多くとしています。又心身共に重度化された利用者さんの対応においても、ドクターより「もうこれはグループホームの対応では無理ですね。」と言われた方への対応も職員一丸となって対応しドクターより関心して頂きました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者と管理者がフリーの立場で勤務されており、緊急時や訪問者、家族等への対応、利用者への声かけや見守りなど、いつでも対応できるように配慮されています。管理栄養士や調理担当の職員を配置しておられ、三食とも事業所で調理され、野菜の下ごしらえや台拭き、配膳、下膳など、利用者のできることは一緒にされ、職員も同じ食事を食べながら会話し、食事が楽しめるよう支援しておられます。外部からリハビリの専門職を講師として招き、利用者の自立支援と職員の介護技術の向上、身体負担を軽減する介護指導を利用者一人ひとりについて学び、電動ベッド、ポータブルトイレなどの福祉用具を取り揃え、自立支援に向けて取り組まれています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの入居者にあった自立支援・本人の生活習慣を大切に、との運営理念を掲げて、朝の申し送り時に理念を唱和して共有し、実践に向け取り組んでいる。	4つの事業所の理念を作成し、その1つに「地域での生活を大切に」と掲げ、毎朝のミーティングで唱和し、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり地域の自治会の班に入り地域の一員として交流している。	自治会に加入し、回覧板や広報が届いている。振興住宅街で新しい家が多いが、近くに菜園があり、菜園の耕作者との会話や交流がある。とんど焼きなどの行事に参加し、ボランティアとの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談援助が受けれるように職員一人一人の力をつけ、職場全体の資質向上に向け資格習得に励んでいる		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価、外部評価の意義を理解してもらい外部評価での指摘を受けて改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解しており、自己評価は全職員で取り組んでいる。項目の理解やサービスについて検討し、評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の方等に 参加を呼びかけ事業所からの報告だけでなく、参加者からの要望や意見も受付検討している。	地域住民、地域包括支援センター、家族、利用者が参加し、定期的に開催している。事業所の状況報告後、意見や要望を話し合い改善に取り組んでいる。職員の顔と名前が分からないという要望に応え、顔写真に名前を添え、事業所内に掲示している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町 担当者と連携をとり助言や指導を受けながらサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターや市町の担当者と連携を取り、助言を受け、サービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者を尊重し見守りや対応策でケアに取り組んでいる 緊急やむお得不い場合に限り最小限(マットコール・ベット2本柵)は家族の許可を頂き実施して安全策をとっている。	身体拘束のないケアに努めており、やむ終えない場合は、家族と相談し対応策を検討し、同意を得ている。玄関は施錠しておらず、自由に出入りができ拘束感はない。	・研修の検討
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者さんへの言動の暴力行為、虐待禁止は介護の基本なので職員全員理解している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修などで学んだりその都度話合いの機会を持っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度利用者の家族と話し合いの時間を持ち説明をし理解納得をしていただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の発足もあり職員となじみの関係が構築されて来ており不満・苦情・意見を表せるようになってきている。又それらを運営に反映していくため話し合いを設けている。	担当者、第三者委員、外部機関を明示し、家族会や運営推進会議、面会時に家族の意見を聞いている。苦情対応マニュアルがあり、出された意見を検討し、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議またはその都度職員は意見・提案をすることが出来、運営に反映させている。	月1回の職員ミーティングや、日々の業務の中で意見や提案を聞き、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最善の職場環境につとめているが体調不良等欠員が出た場合は職員に無理を言う事もある。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内があれば随時参加を進めている。事業所内部の研修会も行い研修後は報告を提出。職員会議等で発表し職員全員が情報を共有できるようにしている。	内部研修や外部研修へ参加する機会を確保している。受講者は復命報告を行い、全職員で共有している。資格習得のための研修への参加も支援している。外部からリハビリの専門職を招き、研修している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会にて同業者との交流の機会をもち、情報交換や研修、施設見学等を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	仮入居申し込み時や相談時等、本人と面談して心身の状況や生活、思いや不安を良く聞き受け止めるようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	仮入居申し込み時や相談時等、家族の意見や思い、不安や要望を聞く機会設け受け止めるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要な支援を見極め、他のサービスの利用も含めて可能な限り柔軟な対応をするように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは一緒に行っていると共に利用者の今までの職業や生活習慣、体験当を生かせるように日々の暮らしの中で助言や教えを頂き職員と利用者が支え合って生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは密に情報交換をし利用者の状況を伝えている。状況を知っていただくことで共に支えあう関係を築いている。病院受診、外出当も家族の協力を得るようにしている。		
21	(10)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や知人が面会に着たり、一緒に外出したりされていて継続しての交流がある。	利用者の家族や友人、知人の面会や来訪を歓迎しており、なじみの場所へ一緒に出かける事もある。墓参等利用者の希望に応じ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等で交流を深めそれぞれの個性が生かせるようにしている。		
23		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞い等も含めて、サービスの提供が終了していても関わりが継続できるように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを密に行い意向や希望の把握に努めている。表情や態度等からも思いを把握する様に努め家族からも情報を得ている。又1/Mのユニット会議と異常時その都度検討の話し合いを持っている。	日々の暮らしの中の会話から思いや意向を把握している。困難な場合は家族の意見を聞きながら本人本位に検討をしている。	
25		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境等について利用者や家族に話を聞いたり日々の交流の中で尋ねたりして把握に努めている。アセスメントに記入担当者会議時に報告。		
26		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、利用者一人一人の生活のリズムや心身状態を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の家族の意見や要望を聞きながら、介護計画に反映している。職員全員が課題を共有し解決できるように会議を行っている。	3か月毎にモニタリングを行ない、6か月で見直しをしている。家族や主治医の意見を聞き、毎月実施するケアカンファレンスで職員全員で話し合い、利用者一人ひとりに応じた介護計画を作成している。状況に変化があった時は、その都度、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状況、変化、言動等記録し職員は情報の共有に努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、受診の付添や送迎等柔軟に対応している又音楽療法や訪問サービス(散髪)を利用している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて消防や民生委員、ボランティア等と協力している		
31	(13)	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医のほかに、本人や家族の希望のかかりつけ医にも受診している。訪問診療や往診も行われている。利用者それぞれのかかりつけ医と連携しながら適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医療機関や希望のかかりつけ医、専門医への受診を支援している。協力医療機関からは毎月2回の往診もあり、連携を深めている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が不在な為医療機関の看護職員や訪問看護の方の協力を得ながら支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時は見舞いに行くなどして、早期退院に向けて、医療機関や家族等と情報交換を密に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や家族、職員等で話し合いを行い情報を共有し、よりよく暮らしていけるように支援している。重度化、終末期のケアについては本人や家族の意向を考慮しつつ、事業所で対応できる事、できない事を状況に応じて話している。	主治医、家族等関係者で話し合い、希望を聞きながら方針を決めている。今年度、主治医や家族の希望や支援もあり、1名のターミナルケアに対応し、看取りを行った。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人一人の日々の状態を把握し、予測される危険を検討し自己防止に取り組んでいる。また緊急時のマニュアルを作成し、救急救命(AED)等などの訓練をしている。	一人ひとりの状態を把握し、事故防止策を検討している。緊急マニュアルを作成し、AEDの訓練をしている。初期対応や応急手当等の定期的訓練はしていない。	・初期対応や応急手当の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、消防署の指導による消火訓練や避難訓練を行っている。地域の自治会に参加し、災害時には地域住民の協力を得られるように働きかけしている。	災害時のマニュアルを作成し、消防署の指導で消火訓練、避難訓練を実施している。運営推進会議を通じて地域の協力が得られるように働きかけをしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取扱や秘密保持に関しては十分に配慮している。言葉掛けや対応に関しても十分に配慮して行っている。	朝のミーティングや日常の業務の中で、運営者や管理者が「受容や傾聴」することの重要性を常に職員に話し、利用者一人ひとりを尊重した、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	日々コミュニケーションを取りながら、思いや希望を把握できるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その中で一人一人が自分の生活ペースで過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等の着替えは利用者を選んで頂くかまたは一緒に選ぶようにしている。日々の整容についても配慮している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化に伴って一緒に準備、後片付けという訳にはいなくなったが野菜の下準備等出来ることは行って頂き管理栄養士の指導のもと、バランスの良い食事提供している。行事食にも力を入れ季節ごとの旬の食べ物も取り入れている。	管理栄養士、調理担当の職員を配置し、三食事業所で調理をしている。野菜の下ごしらえや台拭き、配膳、下膳など出来る事を職員と一緒にしている。会話をしながら職員も一緒に同じ食事をして楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望も考慮しながら管理栄養士により献立が作成されている。食事や水分摂取量はチェック表に記入し把握されている。水分の取りにくい方については好みの飲み物やゼリー状にした物等で水分摂取を図っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性について職員が理解し、必ず口腔ケアを行っている。利用者の状態に応じて声掛けや見守り、介助を行っている。就寝時は義歯は薬液で消毒し、コップや歯ブラシ等は週1回消毒し清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、一人一人の排泄パターンを把握し適切な時に介助や声掛けが出来るように努めている。一人一人に合った介助を心掛け、残存機能を活かし自立支援を図るようにしている。	排泄チェック表を活用して排泄のパターンや習慣を把握し、声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、食事メニューやおやつに気を配り、また水分等の摂取にも十分に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴の支援を行っている。入浴介助時にもコミュニケーションを取り、楽しい雰囲気の中でゆっくり入浴できるようにしている。	毎日、午後から入浴を行い、週3～4回は入浴できるよう、利用者の希望やタイミングに合わせて支援をしている。入浴時は利用者とのコミュニケーションに配慮し、ゆっくり楽しく入浴できるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も利用者の希望や状態に応じて自室でゆっくりと休む時間を持っている。夜間も十分な睡眠を確保できるように日中の活動量を増やし、生活のリズムを整えるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットごとに利用者の処方薬一覧ファイルを作成し職員がいつでも閲覧できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の時など挨拶や各自持ち歌等披露してもらうなど活躍できる場を準備して気分転換をしてもらい楽しんで頂く。又花壇の手入れ、生け花、洗濯物たたみ当出来る範囲で一人一人の力が活かせるように支援している。	行事の時の挨拶や持ち歌の披露、花壇の手入れや生け花、洗濯物たたみ、隣の畑を見ながら季節を実感するなど、一人ひとりのできることを活かした場面づくりをし、張り合いや喜びのある暮らしの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーや小売店への買い物や散歩ドライブ等は希望時や状態に応じて日常的に行っている。季節の行事等の外出は職員が企画している。	近隣スーパーへの買い物、事業所周辺や園庭の散歩、花壇の手入れなど、日常的に戸外に出かけている。桜、つつじ、菖蒲、紅葉等季節の花を見に行く事も多く、外食や少し遠出のドライブにも出かけ、家族へも参加を呼びかけている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や状態に応じて、自己管理出来る範囲内でお金を所持して頂き買い物時自分で支払が出来るように支援している。事業所でお金を預かっている利用者も希望時は買い物を楽しんでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話を利用できるように公衆電話を設置している。電話や手紙のやり取りも行われている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に気を配り、リビングや玄関には花を飾ったり、利用者と共に作成した季節感のある壁飾りや小物等を飾っている。花壇がリビングより見えるので、季節ごとの花等で楽しめるようにしている。	広く、明るいリビングからは、馴染みのスーパーや季節の花が咲いている花壇が見え、各ユニットには自由に行くことができ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファをアー設置し利用者数人で座って過ごすこともできる。ベランダにもベンチを置き思い思いに過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使いなれた小物や家具等を持参出来、自室で居心地良く過ごせるようにしている。	鉢植えの花や、家族の写真、作品が飾っており、使い慣れた生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて手すりを追加設置したり、リビングや居室、廊下等の障害物を確認して除いたりしている。安全に自立した生活が送れる様に環境整備を心掛けている。		

2. 目標達成計画

事業書名 グループホームなのはな

作成日：平成 23年 1月 25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	7	緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・最検討記録は毎日の記録に取り組んでいましたが研修実施記録が新任従業者に対して年次研修計画に掲げてあるにも関わらず口頭で伝えるのみになっていて、書かれていなかった。	従業員一同、身体拘束とは…をもう一度よく勉強し、拘束ゼロに向けた介護支援をいていく。	早速に山口県長寿社会課介護保健班の派遣相談に来て頂けることになり、研修の場を設けることが出来ます。	H23.3月
2	35	年1回の研修で全ての職員を対象に応急手当や初期対応の訓練を定期的実施していなかった。	初期対応や応急手当等について半年に1回は実施しAEDなど速やかに使用できるようになる。新人職員研修については同行研修時に研修して研修記録を作成する。	H23年度研修計画に沿って研修を実施していく。	H23.12月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。